

平成 15年 3月期 決算短信 (連結)

平成 15年 5月 23日

上場会社名 株式会社 ナカノコーポレーション

上場取引所 東大

コード番号 1827

本社所在都道府県

(URL http://www.wave-nakano.co.jp)

東京都

代表者 役 職 名 取締役社長 氏 名 大島 義和

問合せ先責任者 役 職 名 取締役経理部長
氏 名 堀江 怜 TEL (03) 3265 - 4664

決算取締役会開催日 平成 15年 5月 23日

親会社名 (コード番号:) 親会社における当社の株式保有比率: %

米国会計基準採用の有無 無

1. 15年 3月期の連結業績 (平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(1)連結経営成績 (注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示している。

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | |
|---------|--------|------|-------|------|------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 15年 3月期 | 77,992 | 14.0 | 1,020 | 67.9 | 334 | 855.4 |
| 14年 3月期 | 68,433 | 11.6 | 607 | 33.9 | 34 | 93.8 |

| | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | | 潜在株式調整 後1株当たり 当期純利益 | 株主資本 当期純利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|---------|-------|---|----------------|---|---------------------------|----------------|--------------|--------------|
| | 百万円 | % | 円 | 銭 | 円 | 銭 | % | % |
| 15年 3月期 | 1,058 | - | 15.35 | - | - | - | 12.7 | 0.5 |
| 14年 3月期 | 358 | - | 5.20 | - | - | - | 3.9 | 0.0 |

(注) 持分法投資損益 15年 3月期 - 百万円 14年 3月期 - 百万円

期中平均株式数 (連結) 15年 3月期 68,970,555 株 14年 3月期 68,993,547 株

会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)連結財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|---------|--------|-------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 15年 3月期 | 70,571 | 7,632 | 10.8 | 110.69 |
| 14年 3月期 | 76,540 | 9,068 | 11.8 | 131.45 |

(注)期末発行済株式数 (連結) 15年 3月期 68,948,467 株 14年 3月期 68,987,675 株

(3)連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|---------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 15年 3月期 | 1,712 | 750 | 624 | 7,502 |
| 14年 3月期 | 4,757 | 323 | 2,287 | 7,317 |

(4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数 16 社 持分法適用非連結子会社数 - 社 持分法適用関連会社数 - 社

(5)連結範囲及び持分法の適用の異動状況

連結 (新規) 1 社 (除外) - 社 持分法 (新規) - 社 (除外) - 社

2. 16年 3月期の連結業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 |
|-----|--------|------|-------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 中間期 | 28,000 | 200 | 300 |
| 通期 | 65,000 | 500 | 300 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 4 円 35 銭

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料の3~5ページをご参照下さい。

1. 企業集団の状況

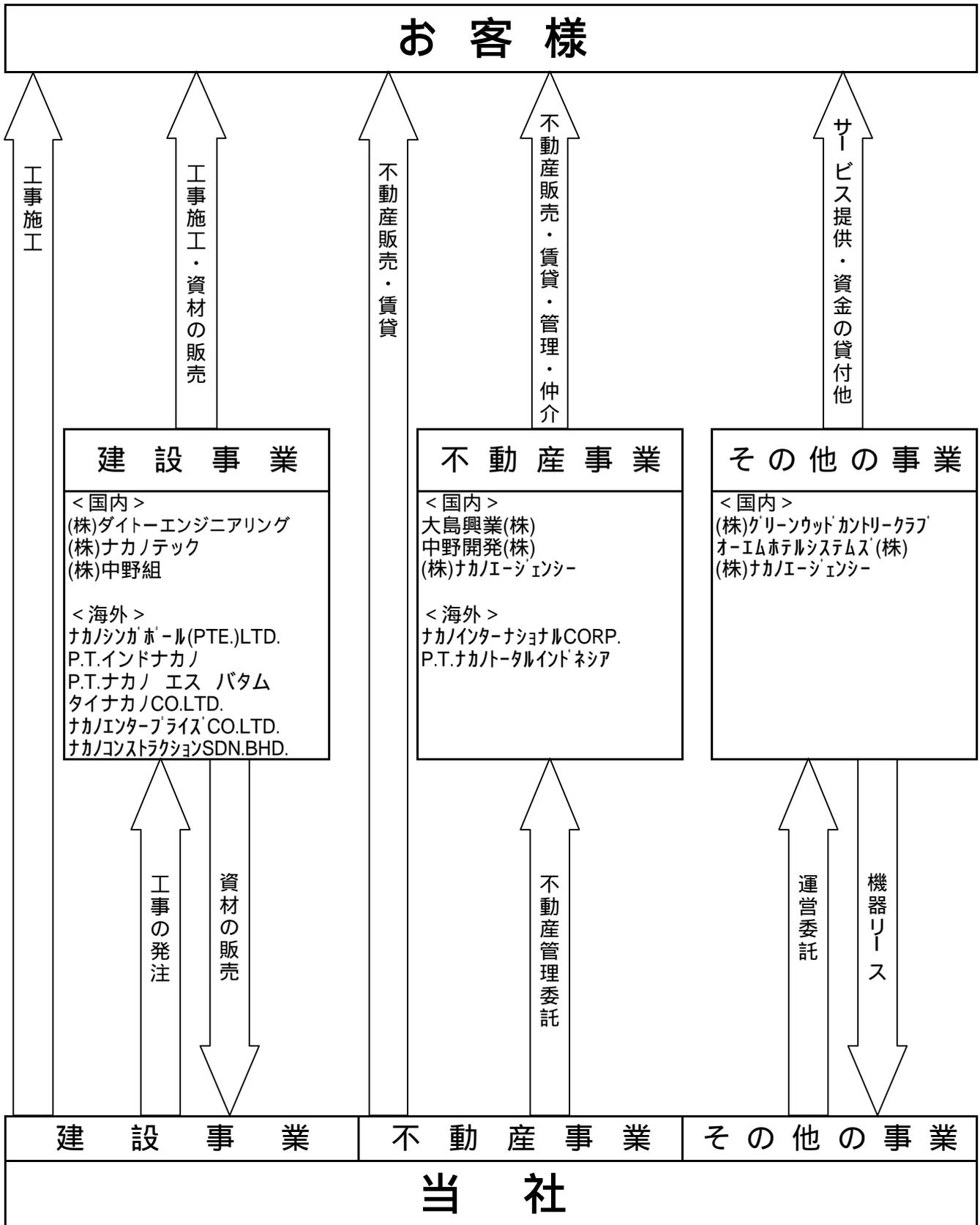
当社グループは、株式会社ナカノコーポレーション、国内子会社8社及び在外子会社8社により構成されており、建設事業及び不動産事業を主な内容として事業活動を展開している。国内及び東南アジアでは総合建設業を、国内及び北米・オセアニアなどでは不動産事業を主として営んでいる。

当社グループの事業に係る位置付け及びその事業別セグメントの概要は次の通りである。

| 区 分 | 会 社 名 | 国 名 | 事 業 内 容 |
|----------------|----------------------|----------|--------------------|
| 建 設 事 業 | (株)ダイソーエンジニアリング | 日 本 | 土木工事業 |
| | (株)ナカノテック | 日 本 | リニューアル工事、海外建設資材の販売 |
| | (株)中野組 | 日 本 | 建設業 |
| | ナカノシンガポール(PTE.)LTD. | シンガポール | 総合建設業 |
| | P.T.インドナカノ | インドネシア | 総合建設業 |
| | P.T.ナカノ エス バタム | インドネシア | 総合建設業 |
| | タイナカノCO.LTD. | タ イ | 総合建設業 |
| | ナカノエンタープライズCO.LTD. | タ イ | 建設資材の販売 |
| | ナカノコンストラクションSDN.BHD. | マ レー シ ア | 総合建設業 |
| 不 動 産 事 業 | 大島興業(株) | 日 本 | 不動産管理業及び不動産賃貸業 |
| | 中野開発(株) | 日 本 | 不動産賃貸業 |
| | (株)ナカノエージェンシー | 日 本 | 不動産賃貸業及び不動産仲介業 |
| | ナカノインターナショナルCORP. | ア メ リ カ | 不動産賃貸業 |
| | P.T.ナカノトータルインドネシア | インドネシア | 不動産賃貸業 |
| そ の 他 の 事 業 | (株)グリーンウッドカントリークラブ | 日 本 | ゴルフ場の運営 |
| | オーエムホテルシステムズ(株) | 日 本 | ホテルの運営管理 |
| | (株)ナカノエージェンシー | 日 本 | 保険代理業、金融業及びリース業 |

上記子会社は全て連結子会社である。

事業の系統図は次のとおりである。



2 . 経営方針

(1) 経営の基本方針

当社グループは、経営方針に「お客様第一主義」を掲げ、お客様へ最良のサービスを提供することを経営の基本方針としております。お客様の信頼を得ることにより、社業を発展させ、社会に貢献する企業であることを目指しております。

(2) 利益配分に関する基本方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元と企業体質の強化を基本課題として、業績と将来の見通しを総合的に勘案して配当を決定する方針をとっております。

なお、当期の株主配当金につきましては、誠に遺憾ではございますが、前期に引き続き無配とさせていただきたいと存じます。

今後につきましては、企業体質の強化と収益の拡大を図り、早期の復配を目指して業績の向上に努める所存であります。

(3) 中期的な経営戦略と対処すべき課題

今後の経済の見通しにつきましては、デフレの克服や金融市場の安定が課題となっておりますが、経済政策には行き詰まりが見られ、景気の先行きは予断を許さない状況が続くものと思われまます。

当社グループは、経営の基本方針である「お客様第一主義」を徹底すべく、お客様に高品質のサービスを提供する事を主眼とする「三カ年経営計画」を策定し、平成14年4月より実施しております。その計画の骨子は、お客様に高品質な営業・施工・アフターサービスを提供し、「建物に関する総合サービスの顧客満足度ナンバーワン企業」を目指す、

安定した収益基盤の確立を図るとともに、安定配当を実現させるというものであり、この計画を確実に遂行し、業績の向上に努めて参ります。

(4) 目標とする経営指標

収益率を重視した経営を実現し、売上高経常利益率3%を確保する。

資金効率を重視した経営を実現し、総資本経常利益率3%を確保する。

借入金残高200億円まで削減する。

3. 経営成績及び財政状態

(1) 当期の業績の概況

当期のわが国経済は、企業収益にリストラによる改善の兆しが見られましたものの、個人消費や株価が引き続き低迷し、米国経済の減速傾向とあいまって、景気の先行きが不透明なまま推移いたしました。

このような経済環境のなか、当社グループは平成14年3月に策定いたしました「三カ年経営計画」にもとづき、お客様に高品質な営業・施工・サービスを提供することを目指し、業績の向上に努めてまいりました。

売上高は、779億92百万円（前期比14.0%増）、営業利益は10億20百万円（前期比67.9%増）、経常利益は3億34百万円（前期比855.4%増）となりました。しかしながら、税効果会計の厳正化を図るための、繰延税金資産の取り崩しによる法人税等調整額9億7百万円の計上などもあり、10億58百万円の当期純損失となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、以下のとおりです。

建設事業

国内建設業界は、建設投資の縮小が続くなか、整理・再編が進むなど、厳しい状況下で推移いたしました。

当社グループの受注高は、国内建設事業471億80百万円に海外建設事業83億93百万円を合わせて555億74百万円（前期比11.9%減）となりました。

売上高は、国内建設事業562億12百万円に海外建設事業147億72百万円を合わせて709億85百万円（前期比12.3%増）となり、営業損失は5億81百万円となりました。

不動産事業

売上高は、賃貸事業19億25百万円に分譲事業42億15百万円を合わせて61億41百万円（前期比40.6%増）となり、営業利益は引き続き米国での分譲事業が好調に推移したことにより、16億35百万円となりました。

その他の事業

ホテル事業を中心とするその他の事業の売上高は、8億75百万円（前期比2.0%増）となり、営業損失は33百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、不動産売上高の増加などにより、17億12百万円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより、7億50百万円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済により、6億24百万円のマイナスとなりました。

この結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、前期に比べ1億84百万円増加し、75億2百万円となりました。

なお、当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

| | 12年3月期 | 13年3月期 | 14年3月期 | 15年3月期 |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|
| 自己資本比率(%) | 11.8 | 11.8 | 11.8 | 10.8 |
| 時価ベースの自己資本比率(%) | 8.6 | 6.5 | 4.8 | 10.4 |
| 債務償還年数(年) | - | 7.4 | - | 19.9 |
| インレスト・カバーレッジ・レシオ(倍) | - | 6.2 | - | 2.5 |

- (注) 自己資本比率：自己資本 / 総資産
 時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産
 債務償還年数：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー
 インレスト・カバーレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。
 株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。
 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いにつきましては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3) 次期の見通し

次期の連結業績につきましては、連結受注高 570 億円、売上高 650 億円、経常利益 5 億円、当期純利益 3 億円を見込んでおります。

また、単独の業績につきましては、受注高 450 億円、売上高 505 億円、経常利益 3 億 250 万円、当期純利益 2 億円を見込んでおります。

4. 連結財務諸表等

(1) 連結貸借対照表

(単位 百万円)

| 科 目 | 年度別 | | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | | 比 較 増 減 |
|---------------------------|------------|-------|--------------|-------|--------------|-----|---------|
| | | | 平成15年3月31日現在 | | 平成14年3月31日現在 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| (資 産 の 部) | | % | | % | | | |
| [流 動 資 産] | [30,457] | 43.2 | [33,185] | 43.4 | [2,727] | | |
| 現金預金 | 8,275 | | 7,407 | | 867 | | |
| 受取手形・完成工事未収入金等 | 11,207 | | 9,515 | | 1,692 | | |
| 有 価 証 券 | - | | 10 | | 10 | | |
| 未 成 工 事 支 出 金 | 8,548 | | 12,066 | | 3,517 | | |
| 不 動 産 事 業 支 出 金 | 1,100 | | 2,772 | | 1,672 | | |
| そ の 他 た な 卸 資 産 | 105 | | 213 | | 108 | | |
| 短 期 貸 付 金 | 232 | | 102 | | 130 | | |
| 繰 延 税 金 資 産 | 42 | | 8 | | 34 | | |
| そ の 他 流 動 資 産 | 988 | | 1,115 | | 127 | | |
| 貸 倒 引 当 金 | 44 | | 27 | | 17 | | |
| [固 定 資 産] | [40,113] | 56.8 | [43,354] | 56.6 | [3,240] | | |
| (有 形 固 定 資 産) | (30,835) | | (32,484) | | (1,648) | | |
| 建 物 ・ 構 築 物 | 13,705 | | 13,858 | | 152 | | |
| 機 械 ・ 運 搬 具 ・ 工 具 器 具 備 品 | 2,222 | | 2,234 | | 12 | | |
| 土 地 | 21,277 | | 21,495 | | 218 | | |
| 建 設 仮 勘 定 | - | | 821 | | 821 | | |
| 減 価 償 却 累 計 額 | 6,369 | | 5,925 | | 443 | | |
| (無 形 固 定 資 産) | (452) | | (515) | | (62) | | |
| (投 資 等) | (8,825) | | (10,353) | | (1,528) | | |
| 投 資 有 価 証 券 | 2,025 | | 2,371 | | 346 | | |
| 長 期 貸 付 金 | 1,213 | | 1,374 | | 161 | | |
| 破 産 債 権 ・ 更 生 債 権 等 | 5,555 | | 5,602 | | 46 | | |
| 繰 延 税 金 資 産 | 2,925 | | 3,878 | | 953 | | |
| そ の 他 投 資 等 | 1,345 | | 1,367 | | 21 | | |
| 貸 倒 引 当 金 | 4,240 | | 4,241 | | 0 | | |
| 資 産 合 計 | 70,571 | 100.0 | 76,540 | 100.0 | 5,968 | | |

(単位 百万円)

| 科 目 | 年度別 | | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | | 比較増減 |
|-----------------------------|------------|-------|--------------|-------|--------------|-----|------|
| | | | 平成15年3月31日現在 | | 平成14年3月31日現在 | | |
| | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | |
| (負 債 の 部) | | % | | % | | | |
| [流 動 負 債] | [33,795] | 47.9 | [43,242] | 56.5 | [9,446] | | |
| 支 払 手 形 ・ 工 事 未 払 金 | 19,168 | | 19,706 | | 538 | | |
| 短 期 借 入 金 | 6,773 | | 12,253 | | 5,480 | | |
| 1 年 内 償 還 予 定 の 社 債 | - | | 300 | | 300 | | |
| 未 払 法 人 税 等 | 92 | | 99 | | 7 | | |
| 未 成 工 事 受 入 金 | 6,558 | | 9,934 | | 3,376 | | |
| 賞 与 引 当 金 | 257 | | 258 | | 0 | | |
| そ の 他 流 動 負 債 | 946 | | 690 | | 255 | | |
| [固 定 負 債] | [29,104] | 41.2 | [24,119] | 31.5 | [4,985] | | |
| 長 期 借 入 金 | 27,295 | | 22,262 | | 5,032 | | |
| 繰 延 税 金 負 債 | 11 | | 15 | | 3 | | |
| 退 職 給 付 引 当 金 | 517 | | 568 | | 50 | | |
| 役 員 退 職 慰 労 引 当 金 | 100 | | 115 | | 14 | | |
| そ の 他 固 定 負 債 | 1,179 | | 1,156 | | 22 | | |
| 負 債 合 計 | 62,900 | 89.1 | 67,361 | 88.0 | 4,460 | | |
| (少 数 株 主 持 分) | | | | | | | |
| [少 数 株 主 持 分] | [38] | 0.1 | [110] | 0.2 | [71] | | |
| (資 本 の 部) | | | | | | | |
| [資 本 金] | [7,323] | 10.4 | [7,323] | 9.5 | [-] | | |
| [資 本 剰 余 金] | [620] | 0.9 | [620] | 0.8 | [-] | | |
| [利 益 剰 余 金] | [406] | 0.5 | [1,465] | 1.9 | [1,058] | | |
| [その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金] | [13] | 0.0 | [57] | 0.1 | [70] | | |
| [為 替 換 算 調 整 勘 定] | [702] | 1.0 | [397] | 0.5 | [304] | | |
| [自 己 株 式] | [2] | 0.0 | [0] | 0.0 | [2] | | |
| 資 本 合 計 | 7,632 | 10.8 | 9,068 | 11.8 | 1,436 | | |
| 負 債、少 数 株 主 持 分 及 び 資 本 合 計 | 70,571 | 100.0 | 76,540 | 100.0 | 5,968 | | |

(2)連結損益計算書

(単位 百万円)

| 科 目 | 年度別 | | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | | 比較増減 |
|-----------------------------|------------|-------|---------------------------|-------|---------------------------|----|------|
| | | | 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日 | | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 | | |
| | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | 金額 | 比率 | |
| 売上高 | 77,992 | 100.0 | 68,433 | 100.0 | 9,558 | | |
| 完成工事高 | (70,985) | | (63,237) | | (7,747) | | |
| 不動産売上高 | (6,141) | | (4,367) | | (1,774) | | |
| その他の売上高 | (864) | | (828) | | (35) | | |
| 売上原価 | 72,942 | 93.5 | 63,660 | 93.0 | 9,281 | | |
| 完成工事原価 | (68,038) | | (60,367) | | (7,671) | | |
| 不動産売上原価 | (4,237) | | (2,684) | | (1,552) | | |
| その他の売上原価 | (666) | | (607) | | (58) | | |
| 売上総利益 | 5,049 | 6.5 | 4,773 | 7.0 | 276 | | |
| 完成工事総利益 | (2,947) | | (2,870) | | (76) | | |
| 不動産売上総利益 | (1,904) | | (1,682) | | (222) | | |
| その他の売上総利益 | (198) | | (220) | | (22) | | |
| 販売費及び一般管理費 | 4,029 | 5.2 | 4,165 | 6.1 | 136 | | |
| 営業利益 | 1,020 | 1.3 | 607 | 0.9 | 412 | | |
| 営業外収益 | 192 | 0.2 | 164 | 0.3 | 27 | | |
| 受取利息 | (66) | | (88) | | (22) | | |
| 連結調整勘定償却額 | (56) | | (-) | | (56) | | |
| 雑収入 | (69) | | (75) | | (6) | | |
| 営業外費用 | 878 | 1.1 | 737 | 1.1 | 140 | | |
| 支払利息 | (630) | | (637) | | (6) | | |
| 為替差損 | (111) | | (-) | | (111) | | |
| 雑支出 | (136) | | (100) | | (36) | | |
| 経常利益 | 334 | 0.4 | 34 | 0.1 | 299 | | |
| 特別利益 | 54 | 0.1 | 26 | 0.0 | 28 | | |
| 固定資産売却益 | (15) | | (4) | | (11) | | |
| 投資有価証券売却益 | (-) | | (18) | | (18) | | |
| その他特別利益 | (39) | | (3) | | (35) | | |
| 特別損失 | 370 | 0.5 | 4,111 | 6.0 | 3,741 | | |
| 前期損益修正損 | (34) | | (101) | | (66) | | |
| 投資有価証券売却損 | (63) | | (0) | | (63) | | |
| 固定資産評価損 | (45) | | (3,164) | | (3,119) | | |
| 投資有価証券評価損 | (44) | | (131) | | (87) | | |
| 貸倒引当金繰入額 | (40) | | (382) | | (341) | | |
| その他特別損失 | (142) | | (331) | | (189) | | |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失() | 18 | 0.0 | 4,050 | 5.9 | 4,068 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 146 | 0.2 | 144 | 0.2 | 2 | | |
| 法人税等調整額 | 907 | 1.2 | 3,879 | 5.7 | 4,786 | | |
| 少数株主利益 | 23 | 0.0 | 43 | 0.1 | 20 | | |
| 当期純損失() | 1,058 | 1.4 | 358 | 0.5 | 700 | | |

(3)連結剰余金計算書

(単位 百万円)

| 科 目 | 期 別 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 | 比 較 増 減 |
|-------------------|-----|------------------------------|------------------------------|---------|
| | | 自平成14年 4月 1日 至平成15年 3月31日 | 自平成13年 4月 1日 至平成14年 3月31日 | |
| (資 本 剰 余 金 の 部) | | | | |
| 資 本 剰 余 金 期 首 残 高 | | 620 | 620 | - |
| 資 本 剰 余 金 期 末 残 高 | | 620 | 620 | - |
| (利 益 剰 余 金 の 部) | | | | |
| 利 益 剰 余 金 期 首 残 高 | | 1,465 | 1,824 | 358 |
| 利 益 剰 余 金 減 少 高 | | | | |
| 当 期 純 損 失 () | | 1,058 | 358 | 700 |
| 利 益 剰 余 金 期 末 残 高 | | 406 | 1,465 | 1,058 |

(4)連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 百万円)

| 科 目 | 期 別 | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|---------------------|-----|---------------------------|---------------------------|
| | | 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日 | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 税金等調整前当期純利益又は純損失() | | 18 | 4,050 |
| 減 価 償 却 費 | | 676 | 720 |
| 連結調整勘定償却額 | | 56 | - |
| 貸倒引当金の増加・減少()額 | | 40 | 382 |
| 退職給付引当金の増加・減少()額 | | 50 | 283 |
| 受取利息及び受取配当金 | | 89 | 115 |
| 支払利息 | | 630 | 637 |
| 固定資産売却損・益()及び除却損 | | 10 | 1 |
| 固定資産評価損 | | 45 | 3,164 |
| 投資有価証券売却及び評価損・益() | | 107 | 112 |
| 売上債権の減少・増加()額 | | 1,821 | 756 |
| 未成工事支出金の減少・増加()額 | | 3,444 | 1,341 |
| その他たな卸資産の減少・増加()額 | | 2,658 | 139 |
| 仕入債務の増加・減少()額 | | 296 | 2,855 |
| 未成工事受入金の増加・減少()額 | | 3,311 | 174 |
| そ の 他 | | 481 | 903 |
| 小 計 | | 2,466 | 4,091 |
| 利息及び配当金の受取額 | | 88 | 100 |
| 利息の支払額 | | 690 | 637 |
| 法人税等の支払額 | | 152 | 129 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 1,712 | 4,757 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 定期預金の預入による支出 | | 930 | - |
| 定期預金の払戻による収入 | | 247 | - |
| 有形固定資産の取得による支出 | | 253 | 263 |
| 有形固定資産の売却による収入 | | 56 | 29 |
| 無形固定資産の取得による支出 | | - | 300 |
| 投資有価証券の取得による支出 | | 7 | 15 |
| 投資有価証券の売却による収入 | | 125 | 73 |
| 貸付金の回収による収入 | | 52 | 132 |
| そ の 他 | | 41 | 19 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | 750 | 323 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 短期借入金増加・減少()額 | | 14 | 3,152 |
| 長期借入れによる収入 | | 450 | - |
| 長期借入金の返済による支出 | | 786 | 864 |
| 社債の償還による支出 | | 300 | - |
| そ の 他 | | 2 | - |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | 624 | 2,287 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 152 | 159 |
| 現金及び現金同等物の増加・減少()額 | | 184 | 2,634 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 7,317 | 9,951 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | | 7,502 | 7,317 |

[連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項]

1. 連結の範囲に関する事項

- (1) 連結子会社の数 すべての子会社(16社)を連結している。なお、平成14年4月22日付で連結子会社 P.T.ナカノ エス パタムを設立した。

主要な連結子会社名:(株)ナカノエージェンシー、(株)ダイトーエンジニアリング、
(株)ナカノテック、ナカノシンガポール(PTE.)LTD.、
ナカノインターナショナルCORP.、P.T.インドナカノ

(2) 主要な非連結子会社名

該当事項なし。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項なし。

3. 連結子会社の決算日等に関する事項

連結子会社の決算日はすべて連結決算日と一致している。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券……………償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している)

時価のないもの……………移動平均法による原価法

たな卸資産

未成工事支出金……………個別法による原価法

販売用不動産及び不動産事業支出金……………個別法による低価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社及び国内連結子会社は定率法、ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法を採用している。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。在外連結子会社は、主として定額法を採用している。

無形固定資産

定額法を採用している。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。

また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用している。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社及び国内連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。ただし、在外連結子会社は、個別債権の回収不能見込額を計上している。

賞与引当金

当社及び国内連結子会社は、従業員に対し支給する賞与の支払に充てるため、実際支給見込額を基礎として当連結会計年度に対応する額を計上している。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計期間末において発生していると認められる額を計上している。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理している。

役員退職慰労引当金

役員の退職により支給する退職慰労金に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

（４）重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理している。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は少数株主持分及び資本の部における為替換算調整勘定に含めて表示している。

（５）完成工事高の計上基準

完成工事高の計上は、工事完成基準によっているが、一定の基準に該当する長期大型工事については工事進行基準によっている。また、在外連結子会社は主として工事進行基準によっている。

（６）重要なリース取引の処理方法

当社及び連結子会社は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

（７）重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理を採用している。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：金利スワップ ヘッジ対象：借入金

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避するために金利スワップ取引を行っており、投機目的の取引は行わない方針である。

ヘッジの有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の判定は省略している。

（８）その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっている。

自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準

当連結会計年度から「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成14年2月21日 企業会計基準第1号)を適用している。これによる当連結会計年度の損益に与える影響はない。

なお、連結財務諸表規則の改正により、当連結会計年度における連結貸借対照表の資本の部及び連結剰余金計算書については、改正後の連結財務諸表規則により作成している。

また、前連結会計年度についても改正後の表示区分に組替えて表示している。

1 株当たり当期純利益に関する会計基準等

当連結会計年度から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成14年9月25日 企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会 平成14年9月25日 企業会計基準適用指針第4号)を適用している。なお、同会計基準及び適用指針の適用に伴う影響はない。

5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項

連結子会社の資産及び負債の評価は全面時価評価法によっている。

6. 連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定は、発生年度に一括償却している。

7. 利益処分項目等の取扱いに関する事項

連結剰余金計算書は、連結会計年度中に確定した利益処分又は損失処理に基づいて作成している。

8. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなる。

【表示方法の変更】

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示していた「定期預金の預入による支出」及び「定期預金の払戻による収入」については、重要性が増したため、当連結会計年度において区分掲記することに変更した。

なお、前連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めていた「定期預金の預入による支出」及び「定期預金の払戻による収入」は、それぞれ 164百万円及び233百万円である。

【注 記 事 項】

(連結貸借対照表関係)

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|---------------|-----------|-----------|
| 1. 担保に供している資産 | 29,452百万円 | 28,848百万円 |
| 2. 保証債務 | 3,482百万円 | 4,578百万円 |
| 3. 受取手形割引高 | 2,001百万円 | 2,117百万円 |
| 受取手形裏書譲渡高 | 17百万円 | 30百万円 |

4. 連結期末日満期手形の処理

前連結会計年度末日は金融機関の休日であったため、連結会計年度満期手形を交換日に決済が行われたものとして処理している。前連結会計年度末日満期手形の金額は次のとおりである。

| | | |
|---------|-------|---------------|
| 受取手形 | - 百万円 | 1 百万円 |
| 上記のほか | | |
| 受取手形割引高 | - 百万円 | 2 3 1 百万円 |
| 支払手形 | - 百万円 | 1 , 5 6 5 百万円 |

(連結損益計算書関係)

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|---|-----------------|-----------------|
| 1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額 | | |
| 減価償却費 | 2 2 6 百万円 | 2 4 6 百万円 |
| 賞与引当金繰入額 | 1 1 1 百万円 | 1 1 2 百万円 |
| 退職給付費用 | 1 5 7 百万円 | 6 3 百万円 |
| 従業員給与手当 | 1 , 7 7 2 百万円 | 1 , 9 2 5 百万円 |
| 2. 工事進行基準による完成工事高 | 1 2 , 8 4 7 百万円 | 1 0 , 6 2 5 百万円 |
| 3. 特別損失に計上した固定資産評価損は、当社及び連結子会社所定の基準にもとづき算出した減損処理額である。 | | |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|---|---------------|---------------|
| 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 | | |
| 現金預金勘定 | 8 , 2 7 5 百万円 | 7 , 4 0 7 百万円 |
| 預入期間が3ヶ月を越える定期預金 | 7 7 2 百万円 | 8 9 百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 7 , 5 0 2 百万円 | 7 , 3 1 7 百万円 |

(リース取引関係)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位 百万円)

| | 当連結会計年度 | | | 前連結会計年度 | | |
|---------|-------------|--------------------|---------------------|-------------|--------------------|---------------------|
| | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相 当 額 | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相 当 額 |
| 運 搬 具 | 2 1 | 1 1 | 9 | 2 4 | 1 1 | 1 2 |
| 工 具 器 具 | 9 4 | 5 8 | 3 6 | 1 7 5 | 1 1 0 | 6 5 |
| 備 品 | | | | | | |
| 合 計 | 1 1 6 | 7 0 | 4 5 | 2 0 0 | 1 2 2 | 7 7 |

2. 未経過リース料期末残高相当額

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|-------|---------|---------|
| 1 年 内 | 2 2 百万円 | 3 7 百万円 |
| 1 年 超 | 2 7 百万円 | 4 6 百万円 |
| 計 | 5 0 百万円 | 8 3 百万円 |

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------|---------|---------|
| 支払リース料 | 4 4 百万円 | 6 7 百万円 |
| 減価償却費相当額 | 3 6 百万円 | 5 7 百万円 |
| 支払利息相当額 | 6 百万円 | 8 百万円 |

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。

(有価証券関係)

当連結会計年度(平成15年3月31日現在)

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

(単位 百万円)

| | 連結貸借対照表 計上額 | 時 価 | 差 額 |
|-------------------------|----------------|-----|-----|
| 時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの | | | |
| 国債・地方債 | 29 | 31 | 1 |
| 合 計 | 29 | 31 | 1 |

2. その他有価証券で時価のあるもの

(単位 百万円)

| | 取 得 原 価 | 連結貸借対照表 計上額 | 差 額 |
|--------------------------------|---------|----------------|-----|
| (1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | | | |
| 株 式 | 254 | 335 | 80 |
| 小 計 | 254 | 335 | 80 |
| (2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | | | |
| 株 式 | 550 | 448 | 101 |
| そ の 他 | 10 | 8 | 1 |
| 小 計 | 560 | 457 | 102 |
| 合 計 | 815 | 793 | 22 |

(注) 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行い、投資有価証券評価損44百万円を計上している。

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式(店頭売買株式を除く) 1,202百万円

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成14年4月1日至平成15年3月31日)

(単位 百万円)

| 売 却 額 | 売 却 益 の 合 計 額 | 売 却 損 の 合 計 額 |
|-------|---------------|---------------|
| 135 | 0 | 63 |

5. その他有価証券のうち満期のあるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

(単位 百万円)

| | 1年以内 | 1年超5年以内 | 5年超10年以内 | 10年超 |
|--------|------|---------|----------|------|
| 債 券 | | | | |
| 国債・地方債 | - | 14 | 14 | - |
| そ の 他 | - | 5 | 3 | - |
| 合 計 | - | 19 | 18 | - |

前連結会計年度（平成14年3月31日現在）

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

（単位 百万円）

| | 連結貸借対照表 計上額 | 時 価 | 差 額 |
|-------------------------|----------------|-----|-----|
| 時価が連結貸借対照表計上額 を超えるもの | | | |
| 国債・地方債 | 29 | 30 | 0 |
| 合 計 | 29 | 30 | 0 |

2. その他有価証券で時価のあるもの

（単位 百万円）

| | 取 得 原 価 | 連結貸借対照表 計上額 | 差 額 |
|--------------------------------|---------|----------------|-----|
| (1) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | | | |
| 株 式 | 435 | 611 | 176 |
| そ の 他 | 10 | 10 | 0 |
| 小 計 | 445 | 622 | 176 |
| (2) 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | | | |
| 株 式 | 547 | 477 | 70 |
| そ の 他 | 34 | 26 | 8 |
| 小 計 | 582 | 503 | 78 |
| 合 計 | 1,027 | 1,125 | 97 |

（注） 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行い、投資有価証券評価損131百万円を計上している。

3. 時価評価されていない主な有価証券の内容及び連結貸借対照表計上額

その他有価証券

非上場株式（店頭売買株式を除く） 1,226百万円

4. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成13年4月1日 至 平成14年3月31日）

（単位 百万円）

| 売 却 額 | 売却益の合計額 | 売却損の合計額 |
|-------|---------|---------|
| 73 | 18 | 0 |

5. その他有価証券のうち満期のあるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

（単位 百万円）

| | 1年以内 | 1年超5年以内 | 5年超10年以内 | 10年超 |
|--------|------|---------|----------|------|
| 債 券 | | | | |
| 国債・地方債 | - | 14 | 14 | - |
| そ の 他 | 10 | 14 | 11 | - |
| 合 計 | 10 | 29 | 26 | - |

（デリバティブ取引関係）

当連結会計年度及び前連結会計年度については、ヘッジ会計を適用しているものを除いては、該当事項はない。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けており、一部の連結子会社は、中小企業退職金共済制度及び退職一時金制度を設けている。また、従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合がある。

なお、当社は東京都建設業厚生年金基金(総合型)に加入しているが、当該厚生年金基金は退職給付会計実務指針33項の例外処理を行う制度である。同基金の年金資産残高のうち、当社の掛金拠出割合に基づく年金資産残高は2,042百万円である。

2. 退職給付債務に関する事項

| | 当連結会計年度末 | 前連結会計年度末 |
|-----------------|----------|----------|
| イ. 退職給付債務 | 4,343百万円 | 4,058百万円 |
| ロ. 年金資産 | 2,912百万円 | 3,176百万円 |
| ハ. 未積立退職給付債務 | 1,431百万円 | 882百万円 |
| ニ. 未認識数理計算上の差異 | 913百万円 | 314百万円 |
| ホ. 未認識過去勤務債務 | -百万円 | -百万円 |
| ヘ. 連結貸借対照表計上額純額 | 517百万円 | 568百万円 |
| ト. 退職給付引当金 | 517百万円 | 568百万円 |

(注)上記1.の「一部の連結子会社」については、退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用している。

3. 退職給付費用に関する事項

| | 当連結会計期間 | 前連結会計期間 |
|----------------------------|---------|---------|
| イ. 勤務費用 | 182百万円 | 179百万円 |
| ロ. 利息費用 | 140百万円 | 142百万円 |
| ハ. 期待運用収益 | 78百万円 | 81百万円 |
| ニ. 数理計算上の差異の費用処理額 | 27百万円 | 19百万円 |
| ホ. 過去勤務債務(債務の減額)の費用処理額(注1) | -百万円 | 233百万円 |
| ヘ. 小計 | 271百万円 | 27百万円 |
| ト. 総合型厚生年金基金拠出額 | 124百万円 | 126百万円 |
| チ. 退職給付費用 | 396百万円 | 154百万円 |

(注)1. 前連結会計年度において、給付水準に係る制度変更が行われたことに伴うものであり、前連結会計年度に一括処理している。

2. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「イ. 勤務費用」に計上している。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | 当連結会計期間 | 前連結会計期間 |
|-------------------|--|----------------|
| イ. 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 | 同 左 |
| ロ. 割引率 | 3.0% | 3.5% |
| ハ. 期待運用収益率 | 2.5% | 2.5% |
| ニ. 数理計算上の差異の処理年数 | 12年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理している。) | 同 左 |
| ホ. 過去勤務債務の額の処理年数 | - | 発生年度に一括処理している。 |

(税効果会計関係)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 当連結会計年度 | 前連結会計年度 |
|----------------|----------|-----------|
| (繰延税金資産) | | |
| 賞与引当金限度超過額 | 87百万円 | 57百万円 |
| 退職給付引当金限度超過額 | 82百万円 | 48百万円 |
| 役員退職慰労引当金限度超過額 | 41百万円 | 48百万円 |
| 貸倒引当金限度超過額 | 573百万円 | 584百万円 |
| 海外不動産事業評価損 | 737百万円 | 1,052百万円 |
| 販売用不動産等評価損 | 512百万円 | 515百万円 |
| 固定資産評価損 | 1,330百万円 | 1,320百万円 |
| 繰越欠損金 | 6,353百万円 | 6,533百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 20百万円 | 32百万円 |
| その他 | 137百万円 | 335百万円 |
| 繰延税金資産小計 | 9,875百万円 | 10,528百万円 |
| 評価性引当額 | 6,906百万円 | 6,582百万円 |
| 繰延税金資産合計 | 2,968百万円 | 3,945百万円 |
| (繰延税金負債) | | |
| その他有価証券評価差額金 | 8百万円 | 70百万円 |
| その他 | 3百万円 | 3百万円 |
| 繰延税金負債合計 | 11百万円 | 74百万円 |
| 繰延税金資産純額 | 2,956百万円 | 3,871百万円 |

(セグメント情報)

1. 事業の種類別セグメント情報

当連結会計年度(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

(単位 百万円)

| | 建設事業 | 不動産事業 | その他の事業 | 計 | 消去又は全社 | 連結 |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 70,985 | 6,141 | 864 | 77,992 | - | 77,992 |
| (2)セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | 10 | 10 | (10) | - |
| 計 | 70,985 | 6,141 | 875 | 78,002 | (10) | 77,992 |
| 営業費用 | 71,567 | 4,506 | 908 | 76,982 | (10) | 76,971 |
| 営業利益又は営業損失() | 581 | 1,635 | 33 | 1,020 | - | 1,020 |
| 資産、減価償却費及び資本的支出 | | | | | | |
| 資産 | 29,923 | 23,917 | 7,516 | 61,357 | 9,213 | 70,571 |
| 減価償却費 | 191 | 275 | 205 | 673 | - | 673 |
| 資本的支出 | 53 | 161 | 38 | 253 | - | 253 |

(注) 1. 事業区分の方法

日本標準産業分類及び連結損益計算書の売上集計区分を勘案して区分した。

2. 各事業区分に属する主要内容

建設事業: 土木・建築その他建設工事全般に関する事業

不動産事業: 不動産の売買、賃貸、仲介等に関する事業

その他の事業: ホテル業・保険代理業・ゴルフ場の経営他

前連結会計年度(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(単位 百万円)

| | 建設事業 | 不動産事業 | その他の事業 | 計 | 消去又は全社 | 連結 |
|----------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高及び営業損益 | | | | | | |
| 売上高 | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 63,237 | 4,367 | 828 | 68,433 | - | 68,433 |
| (2)セグメント間の内部売上高又は振替高 | - | - | 29 | 29 | (29) | - |
| 計 | 63,237 | 4,367 | 858 | 68,463 | (29) | 68,433 |
| 営業費用 | 64,019 | 2,970 | 865 | 67,855 | (29) | 67,825 |
| 営業利益又は営業損失() | 781 | 1,396 | 7 | 607 | - | 607 |
| 資産、減価償却費及び資本的支出 | | | | | | |
| 資産 | 32,125 | 26,359 | 7,540 | 66,024 | 10,515 | 76,540 |
| 減価償却費 | 217 | 285 | 209 | 712 | - | 712 |
| 資本的支出 | 73 | 188 | 300 | 563 | - | 563 |

(注) 1. 事業区分の方法

日本標準産業分類及び連結損益計算書の売上集計区分を勘案して区分した。

2. 各事業区分に属する主要内容

建設事業: 土木・建築その他建設工事全般に関する事業

不動産事業: 不動産の売買、賃貸、仲介等に関する事業

その他の事業: ホテル業・保険代理業・ゴルフ場の経営他

2. 所在地別セグメント情報

当連結会計年度(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

(単位 百万円)

| | 日 本 | 東南アジア | 北 米 | オセアニア | 計 | 消去又は 全 社 | 連 結 |
|--------------------------|--------|--------|-------|-------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業損益 | | | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 58,202 | 14,792 | 4,411 | 585 | 77,992 | - | 77,992 |
| (2)セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 223 | - | - | - | 223 | (223) | - |
| 計 | 58,425 | 14,792 | 4,411 | 585 | 78,215 | (223) | 77,992 |
| 営 業 費 用 | 58,670 | 14,628 | 3,381 | 514 | 77,194 | (223) | 76,971 |
| 営業利益又は営業損失() | 244 | 163 | 1,029 | 71 | 1,020 | - | 1,020 |
| 資 産 | 49,634 | 6,114 | 4,079 | 1,409 | 61,237 | 9,333 | 70,571 |

(注)1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1)東南アジア……シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ
- (2)北 米……アメリカ
- (3)オセアニア……オーストラリア

前連結会計年度(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(単位 百万円)

| | 日 本 | 東南アジア | 北 米 | オセアニア | 計 | 消去又は 全 社 | 連 結 |
|--------------------------|--------|--------|-------|-------|--------|-------------|--------|
| 売上高及び営業損益 | | | | | | | |
| 売 上 高 | | | | | | | |
| (1)外部顧客に対する売上高 | 53,016 | 12,579 | 2,151 | 685 | 68,433 | - | 68,433 |
| (2)セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 225 | - | - | - | 225 | (225) | - |
| 計 | 53,242 | 12,579 | 2,151 | 685 | 68,659 | (225) | 68,433 |
| 営 業 費 用 | 53,681 | 12,370 | 1,420 | 578 | 68,051 | (225) | 67,825 |
| 営業利益又は営業損失() | 439 | 209 | 731 | 106 | 607 | - | 607 |
| 資 産 | 51,215 | 7,110 | 6,043 | 1,535 | 65,905 | 10,634 | 76,540 |

(注)1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

2. 各区分に属する主な国又は地域

- (1)東南アジア……シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ
- (2)北 米……アメリカ
- (3)オセアニア……オーストラリア

3. 海外売上高

当連結会計年度(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

(単位 百万円)

| | 東南アジア | 北 米 | オセアニア | 合 計 |
|--------------------------|--------|-------|-------|--------|
| 海 外 売 上 高 | 14,792 | 4,411 | 585 | 19,789 |
| 連 結 売 上 高 | | | | 77,992 |
| 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%) | 19.0 | 5.7 | 0.7 | 25.4 |

(注) 1. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

2. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

3. 各区分に属する主な国又は地域

(1) 東南アジア……シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ

(2) 北 米……アメリカ

(3) オセアニア……オーストラリア

前連結会計年度(平成13年4月1日～平成14年3月31日)

(単位 百万円)

| | 東南アジア | 北 米 | オセアニア | 合 計 |
|--------------------------|--------|-------|-------|--------|
| 海 外 売 上 高 | 12,579 | 2,151 | 685 | 15,416 |
| 連 結 売 上 高 | | | | 68,433 |
| 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%) | 18.4 | 3.1 | 1.0 | 22.5 |

(注) 1. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

2. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっている。

3. 各区分に属する主な国又は地域

(1) 東南アジア……シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ

(2) 北 米……アメリカ

(3) オセアニア……オーストラリア

(関連当事者との取引)

該当事項なし。

5. 連結業績の建設事業の受注高、売上高、繰越高

(単位 百万円)

| | | 当連結会計年度 | | 前連結会計年度 | | 比較増減 | |
|-------------|----|---------------------------|-------|---------------------------|-------|--------|------|
| | | 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日 | | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 | | | |
| | | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減比 |
| 受 注 高 | 国内 | 47,180 | 84.9 | 49,814 | 79.0 | 2,634 | 5.3 |
| | 海外 | 8,393 | 15.1 | 13,261 | 21.0 | 4,867 | 36.7 |
| | 合計 | 55,574 | 100.0 | 63,075 | 100.0 | 7,501 | 11.9 |
| 売 上 高 | 国内 | 56,212 | 79.2 | 50,670 | 80.1 | 5,542 | 10.9 |
| | 海外 | 14,772 | 20.8 | 12,566 | 19.9 | 2,205 | 17.6 |
| | 合計 | 70,985 | 100.0 | 63,237 | 100.0 | 7,747 | 12.3 |
| 繰 越 高 | 国内 | 46,015 | 82.7 | 55,048 | 77.5 | 9,032 | 16.4 |
| | 海外 | 9,616 | 17.3 | 15,995 | 22.5 | 6,379 | 39.9 |
| | 合計 | 55,631 | 100.0 | 71,043 | 100.0 | 15,411 | 21.7 |

なお、参考のため提出会社単独の建設事業の状況は次のとおりである。

(単位 百万円)

| | | 当 期 | | 前 期 | | 比較増減 | |
|-------------|----|---------------------------|-------|---------------------------|-------|-------|------|
| | | 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日 | | 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日 | | | |
| | | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 増減比 |
| 受 注 高 | 建築 | 44,500 | 96.7 | 46,419 | 96.5 | 1,918 | 4.1 |
| | 土木 | 1,523 | 3.3 | 1,673 | 3.5 | 150 | 9.0 |
| | 合計 | 46,023 | 100.0 | 48,092 | 100.0 | 2,069 | 4.3 |
| 売 上 高 | 建築 | 53,474 | 97.1 | 47,571 | 97.1 | 5,902 | 12.4 |
| | 土木 | 1,610 | 2.9 | 1,415 | 2.9 | 195 | 13.8 |
| | 合計 | 55,085 | 100.0 | 48,987 | 100.0 | 6,097 | 12.4 |
| 繰 越 高 | 建築 | 44,440 | 97.8 | 53,414 | 98.0 | 8,974 | 16.8 |
| | 土木 | 1,004 | 2.2 | 1,091 | 2.0 | 87 | 8.0 |
| | 合計 | 45,444 | 100.0 | 54,506 | 100.0 | 9,061 | 16.6 |

平成 15年 3月期 個別財務諸表の概要

平成 15年 5月 23日

上場会社名 株式会社 ナカノコーポレーション

上場取引所 東大

コード番号 1827

本社所在都道府県

(URL <http://www.wave-nakano.co.jp>)

東京都

代表者 役 職 名 取締役社長

氏 名 大島 義和

問合せ先責任者 役 職 名 取締役経理部長

氏 名 堀江 怜

TEL (03) 3265 - 4664

決算取締役会開催日 平成 15年 5月 23日

中間配当制度の有無 無

定時株主総会開催日 平成 15年 6月 27日

単元株制度採用の有無 有 (1単元 1,000株)

1. 15年 3月期の業績 (平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

(1)経営成績

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示している。

| | 売 上 高 | | 営 業 利 益 | | 経 常 利 益 | |
|---------|--------|------|---------|-------|---------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 15年 3月期 | 60,301 | 13.2 | 683 | 199.2 | 452 | 82.3 |
| 14年 3月期 | 53,267 | 15.9 | 228 | 55.9 | 248 | 23.4 |

| | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | | 潜在株式調整 後1株当たり 当期純利益 | 株主資本 当期純利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|---------|-------|------|----------------|-----|---------------------------|----------------|--------------|--------------|
| | 百万円 | % | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 15年 3月期 | 595 | - | 8.64 | - | - | 7.6 | 0.7 | 0.7 |
| 14年 3月期 | 72 | 52.1 | 1.04 | - | - | 0.9 | 0.4 | 0.5 |

(注) 期中平均株式数 15年 3月期 68,970,555 株 14年 3月期 68,993,547 株

会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)配当状況

| | 1株当たり年間配当金 | | | 配当金総額 (年間) | 配当性向 | 株主資本 配当率 |
|---------|------------|-----------|-----------|---------------|------|-------------|
| | 円 銭 | 中間 円 銭 | 期末 円 銭 | | | |
| 15年 3月期 | 0.00 | - | 0.00 | 0 | - | - |
| 14年 3月期 | 0.00 | - | 0.00 | 0 | - | - |

(3)財政状態

| | 総資産 | 株主資本 | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|---------|--------|-------|--------|-----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 15年 3月期 | 63,940 | 7,535 | 11.8 | 109.29 |
| 14年 3月期 | 67,367 | 8,194 | 12.2 | 118.78 |

(注) 期末発行済株式数 15年 3月期 68,948,467 株 14年 3月期 68,987,675 株

期末自己株式数 15年 3月期 47,727 株 14年 3月期 8,519 株

2. 16年 3月期の業績予想 (平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり年間配当金 | | |
|-----|--------|------|-------|------------|-----------|------|
| | | | | 中間 円 銭 | 期末 円 銭 | 円 銭 |
| 中間期 | 20,000 | 250 | 300 | - | - | - |
| 通 期 | 50,500 | 325 | 200 | - | 0.00 | 0.00 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 2円 90銭

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料の3~5ページをご参照下さい。

6. 個別財務諸表等

(1) 貸借対照表

(単位 百万円)

| 科目 | 当 期 | | 前 期 | | 比較増減 |
|-----------------|--------------|-------|--------------|-------|-----------|
| | 平成15年3月31日現在 | | 平成14年3月31日現在 | | |
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| (資 産 の 部) | | % | | % | |
| [流 動 資 産] | [23,456] | 36.7 | [25,710] | 38.2 | [2,253] |
| 現金預金 | 4,642 | | 3,935 | | 706 |
| 受取手形 | 235 | | 292 | | 56 |
| 完成工事未収入金 | 8,001 | | 6,201 | | 1,800 |
| 販売用不動産未収入金 | - | | 120 | | 120 |
| 未成工事支出金 | 8,131 | | 10,679 | | 2,548 |
| 販売用不動産 | - | | 124 | | 124 |
| 不動産事業支出金 | 1,010 | | 2,656 | | 1,646 |
| 材料貯蔵品 | 92 | | 81 | | 11 |
| 短期貸付金 | 200 | | 300 | | 100 |
| 未収入金 | 714 | | 913 | | 198 |
| その他流動資産 | 456 | | 431 | | 25 |
| 貸倒引当金 | 27 | | 26 | | 1 |
| [固 定 資 産] | [40,484] | 63.3 | [41,656] | 61.8 | [1,172] |
| (有 形 固 定 資 産) | (21,707) | | (21,982) | | (274) |
| 建物・構築物 | 9,499 | | 8,634 | | 864 |
| 機械・運搬具 | 182 | | 175 | | 7 |
| 工具器具・備品 | 605 | | 597 | | 7 |
| 土地 | 15,640 | | 15,646 | | 5 |
| 建設仮勘定 | - | | 821 | | 821 |
| 減価償却累計額 | 4,220 | | 3,894 | | 325 |
| (無 形 固 定 資 産) | (217) | | (216) | | (0) |
| (投 資 等) | (18,559) | | (19,457) | | (898) |
| 投資有価証券 | 1,941 | | 2,269 | | 328 |
| 関係会社株式 | 5,980 | | 3,583 | | 2,397 |
| 長期貸付金 | 146 | | 155 | | 9 |
| 関係会社長期貸付金 | 6,838 | | 9,056 | | 2,217 |
| 破産債権、更生債権等 | 1,009 | | 1,126 | | 117 |
| 長期差入保証金 | 480 | | 501 | | 20 |
| 長期保険積立金 | 731 | | 697 | | 33 |
| 繰延税金資産 | 2,289 | | 2,936 | | 646 |
| その他投資等 | 47 | | 72 | | 25 |
| 貸倒引当金 | 906 | | 941 | | 35 |
| 資 産 合 計 | 63,940 | 100.0 | 67,367 | 100.0 | 3,426 |

(単位 百万円)

| 科目 | 期 別 | | 前 期 | | 比較増減 |
|--|--------------|-------|--------------|-------|-----------|
| | 当 期 | | 平成14年3月31日現在 | | |
| | 平成15年3月31日現在 | | 金 額 | 構成比 | |
| (負 債 の 部) | | % | | % | |
| [流 動 負 債] | [28,664] | 44.8 | [37,123] | 55.1 | [8,459] |
| 支 払 手 形 | 9,416 | | 9,786 | | 369 |
| 工 事 未 払 金 | 5,372 | | 5,693 | | 320 |
| 短 期 借 入 金 | 6,556 | | 12,006 | | 5,449 |
| 1年内償還予定の社債 | - | | 300 | | 300 |
| 未 払 法 人 税 等 | 52 | | 49 | | 3 |
| 未 成 工 事 受 入 金 | 6,245 | | 8,569 | | 2,323 |
| 完 成 工 事 補 償 引 当 金 | 17 | | 14 | | 2 |
| 賞 与 引 当 金 | 237 | | 235 | | 2 |
| そ の 他 流 動 負 債 | 766 | | 470 | | 295 |
| [固 定 負 債] | [27,741] | 43.4 | [22,048] | 32.7 | [5,692] |
| 長 期 借 入 金 | 26,183 | | 20,483 | | 5,700 |
| 退 職 給 付 引 当 金 | 488 | | 536 | | 48 |
| 役 員 退 職 慰 労 引 当 金 | 100 | | 115 | | 14 |
| 長 期 預 り 金 | 968 | | 913 | | 55 |
| 負 債 合 計 | 56,405 | 88.2 | 59,172 | 87.8 | 2,767 |
| (資 本 の 部) | | | | | |
| [資 本 金] | [7,323] | 11.5 | [7,323] | 10.9 | [-] |
| [資 本 剰 余 金] | [620] | 1.0 | [620] | 0.9 | [-] |
| 資 本 準 備 金 | 620 | | 620 | | - |
| [利 益 剰 余 金] | [373] | 0.6 | [222] | 0.4 | [595] |
| 当 期 未 処 理 損 失 () 又 は 当 期 未 処 分 利 益 | 373 | | 222 | | 595 |
| [そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金] | [32] | 0.1 | [28] | 0.0 | [61] |
| [自 己 株 式] | [2] | 0.0 | [0] | 0.0 | [2] |
| 資 本 合 計 | 7,535 | 11.8 | 8,194 | 12.2 | 659 |
| 負 債 ・ 資 本 合 計 | 63,940 | 100.0 | 67,367 | 100.0 | 3,426 |

(2)損益計算書

(単位 百万円)

| 科 目 | 期 別 | 当 期 | | 前 期 | | 比 較 増 減 |
|---|-----|----------------------------|-------|----------------------------|-------|-----------|
| | | 自平成14年4月 1日 至平成15年3月31日 | | 自平成13年4月 1日 至平成14年3月31日 | | |
| | | 金 額 | 比 率 | 金 額 | 比 率 | |
| 売 上 | 高 | 60,301 | 100.0 | 53,267 | 100.0 | 7,034 |
| 完 成 工 事 | 高 | (55,085) | | (48,987) | | (6,097) |
| 不 動 産 売 上 | 高 | (4,527) | | (3,646) | | (881) |
| そ の 他 の 売 上 | 高 | (688) | | (633) | | (54) |
| 売 上 原 価 | 価 | 56,549 | 93.8 | 49,793 | 93.5 | 6,755 |
| 完 成 工 事 原 価 | 価 | (52,858) | | (46,882) | | (5,976) |
| 不 動 産 売 上 原 価 | 価 | (3,101) | | (2,382) | | (719) |
| そ の 他 の 売 上 原 価 | 価 | (589) | | (529) | | (59) |
| 売 上 総 利 益 | 益 | 3,752 | 6.2 | 3,473 | 6.5 | 279 |
| 完 成 工 事 総 利 益 | 益 | (2,227) | | (2,105) | | (121) |
| 不 動 産 売 上 総 利 益 | 益 | (1,425) | | (1,263) | | (162) |
| そ の 他 の 売 上 総 利 益 | 益 | (98) | | (103) | | (4) |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 費 | 3,069 | 5.1 | 3,244 | 6.1 | 175 |
| 営 業 利 益 | 益 | 683 | 1.1 | 228 | 0.4 | 454 |
| 営 業 外 収 益 | 益 | 546 | 0.9 | 655 | 1.3 | 109 |
| 受 取 利 息 | 息 | (107) | | (122) | | (15) |
| 受 取 配 当 金 | 金 | (409) | | (495) | | (85) |
| 雑 収 入 | 入 | (29) | | (38) | | (8) |
| 営 業 外 費 用 | 用 | 777 | 1.3 | 635 | 1.2 | 141 |
| 支 払 利 息 | 息 | (580) | | (555) | | (25) |
| 為 替 差 損 | 損 | (99) | | (-) | | (99) |
| 雑 支 出 | 出 | (97) | | (80) | | (16) |
| 経 常 利 益 | 益 | 452 | 0.7 | 248 | 0.5 | 204 |
| 特 別 利 益 | 益 | 12 | 0.0 | 20 | 0.0 | 8 |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 益 | 益 | (6) | | (18) | | (11) |
| そ の 他 特 別 利 益 | 益 | (5) | | (2) | | (3) |
| 特 別 損 失 | 失 | 316 | 0.5 | 3,103 | 5.8 | 2,786 |
| 前 期 損 益 修 正 損 | 損 | (18) | | (73) | | (55) |
| 投 資 損 失 引 当 金 繰 入 額 | 額 | (-) | | (2,368) | | (2,368) |
| 投 資 有 価 証 券 売 却 損 | 損 | (63) | | (-) | | (63) |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額 | 額 | (46) | | (48) | | (1) |
| 固 定 資 産 評 価 損 | 損 | (45) | | (210) | | (165) |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損 | 損 | (42) | | (131) | | (89) |
| そ の 他 特 別 損 失 | 失 | (100) | | (271) | | (170) |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 又 は 税 引 前 当 期 純 損 失 () | | 148 | 0.2 | 2,834 | 5.3 | 2,982 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | | 54 | 0.1 | 50 | 0.1 | 4 |
| 法 人 税 等 調 整 額 | | 689 | 1.1 | 2,956 | 5.5 | 3,646 |
| 当 期 純 損 失 () 又 は 当 期 純 利 益 | | 595 | 1.0 | 72 | 0.1 | 667 |
| 前 期 繰 越 利 益 | | 222 | | 150 | | 72 |
| 当 期 未 処 理 損 失 () 又 は 当 期 未 処 分 利 益 | | 373 | | 222 | | 595 |

[財務諸表作成の基本となる重要な事項]

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券……………償却原価法（定額法）

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……………決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定している）

時価のないもの……………移動平均法による原価法

たな卸資産

未成工事支出金……………個別法による原価法

販売用不動産及び不動産事業支出金……………個別法による低価法

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用している。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）は定額法を採用している。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。

無形固定資産

定額法を採用している。なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっている。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

完成工事補償引当金

完成工事に係るかし担保の費用に備えるため、過年度の実績に基づき当期の完成工事高に対する将来の見積補償額に基づいて計上する方法によっている。

賞与引当金

従業員に対し支給する賞与の支払に充てるため、実際支給見込額を基礎として当事業年度に対応する額を計上している。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上している。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理している。

役員退職慰労引当金

役員の退職により支給する退職慰労金に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

投資損失引当金

関係会社への投資に対する損失に備えるため、子会社等の株式の実質価額が著しく低下したものについて、その実質価額の低下相当額を計上している。なお、貸借対照表は、関係会社株式から当該引当金を控除して表示している。

4. 完成工事高の計上基準

完成工事高の計上は、工事完成基準によっているが、一定の基準に該当する長期大型工事については工事進行基準によっている。

5. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

6. ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップについては、特例処理を採用している。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段：金利スワップ ヘッジ対象：借入金

ヘッジ方針

借入金の金利変動リスクを回避するために金利スワップ取引を行っており、投機目的の取引は行わない方針である。

ヘッジの有効性評価の方法

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため、ヘッジの有効性の判定は省略している。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税に相当する額の会計処理は、税抜方式によっている。

自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準

当事業年度から「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成14年2月21日 企業会計基準第1号)を適用している。これによる当事業年度の損益に与える影響はない。

なお、財務諸表等規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の資本の部については、改正後の財務諸表等規則により作成している。

また、前事業年度についても改正後の表示区分に組替えて表示している。

1株当たり当期純利益に関する会計基準等

当事業年度から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成14年9月25日 企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準委員会平成14年9月25日 企業会計基準適用指針第4号)を適用している。なお、同会計基準及び適用指針の適用に伴う影響はない。

[注記事項]

(貸借対照表関係)

| | 当 期 | 前 期 |
|---------------|-----------|-----------|
| 1. 担保に供している資産 | 17,142百万円 | 15,445百万円 |
| 2. 保証債務 | 3,549百万円 | 4,775百万円 |
| 3. 受取手形割引高 | 1,961百万円 | 2,019百万円 |
| 受取手形裏書譲渡高 | -百万円 | 7百万円 |
| 4. 自己株式の数 | 47,727株 | 8,519株 |

| | | |
|---------------------------|--------|-------|
| 5. 資本の欠損の額 | 375百万円 | - |
| 6. 商法第290条第1項第6号に規定する純資産額 | - | 28百万円 |

7. 期末日満期手形の処理

前期末日は金融機関の休日であったため、期末日満期手形を交換日に決済が行われたものとして処理している。前期末日満期手形の金額は次のとおりである。

| | | |
|---------|------|----------|
| 受取手形 | -百万円 | 1百万円 |
| 上記のほか | | |
| 受取手形割引高 | -百万円 | 205百万円 |
| 支払手形 | -百万円 | 1,565百万円 |

| | | |
|--------------------------|----------|----------|
| 8. 関係会社株式から直接控除した投資損失引当金 | 2,368百万円 | 2,368百万円 |
|--------------------------|----------|----------|

(損益計算書関係)

| | 当 期 | 前 期 |
|--|----------|----------|
| 1. 工事進行基準による完成工事高 | 1,679百万円 | 1,354百万円 |
| 2. 特別損失に計上した固定資産評価損は、当社所定の基準にもとづき算出した減損処理額である。 | | |

(リース取引関係)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1. リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位 百万円)

| | 当 期 | | 前 期 | | 前 期 | |
|------------|-------------|--------------------|-------------------|-------------|--------------------|-------------------|
| | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 | 取得価額 相当額 | 減価償却 累計額 相当額 | 期 末 残 高 相当額 |
| 運搬具 | 21 | 11 | 9 | 31 | 17 | 13 |
| 工具器具 備品 | 94 | 58 | 36 | 170 | 105 | 64 |
| 合 計 | 116 | 70 | 45 | 201 | 123 | 78 |

2. 未経過リース料期末残高相当額

| | 当 期 | 前 期 |
|-------|-------|-------|
| 1 年 内 | 22百万円 | 37百万円 |
| 1 年 超 | 27百万円 | 46百万円 |
| 計 | 50百万円 | 84百万円 |

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

| | 当 期 | 前 期 |
|----------|---------|---------|
| 支払リース料 | 4 4 百万円 | 8 1 百万円 |
| 減価償却費相当額 | 3 6 百万円 | 6 8 百万円 |
| 支払利息相当額 | 6 百万円 | 9 百万円 |

4. 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっている。

(有価証券関係)

当期及び前期において子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはない。

(税効果会計関係)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 当 期 | 前 期 |
|----------------|---------------|---------------|
| (繰延税金資産) | | |
| 賞与引当金限度超過額 | 8 2 百万円 | 5 2 百万円 |
| 退職給付引当金限度超過額 | 6 6 百万円 | 3 7 百万円 |
| 役員退職慰労引当金限度超過額 | 4 1 百万円 | 4 8 百万円 |
| 貸倒引当金限度超過額 | 2 8 0 百万円 | 2 9 6 百万円 |
| 海外不動産事業評価損 | 7 3 7 百万円 | 1 , 0 5 2 百万円 |
| 販売用不動産等評価損 | 4 9 9 百万円 | 5 1 2 百万円 |
| 投資損失引当金繰入額 | 9 6 8 百万円 | 9 9 5 百万円 |
| 固定資産評価損 | 8 0 百万円 | 8 3 百万円 |
| 繰越欠損金 | 5 , 2 6 7 百万円 | 5 , 3 1 5 百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 2 2 百万円 | 3 2 百万円 |
| その他 | 1 4 6 百万円 | 1 3 4 百万円 |
| 繰延税金資産小計 | 8 , 1 9 2 百万円 | 8 , 5 6 0 百万円 |
| 評価性引当額 | 5 , 9 0 2 百万円 | 5 , 5 7 1 百万円 |
| 繰延税金資産合計 | 2 , 2 8 9 百万円 | 2 , 9 8 9 百万円 |
| (繰延税金負債) | | |
| その他有価証券評価差額金 | - 百万円 | 5 3 百万円 |
| 繰延税金資産純額 | 2 , 2 8 9 百万円 | 2 , 9 3 6 百万円 |

(3)損失処理案及び利益処分案

(単位 百万円)

| 期 別 科 目 | 当 期 | 期 別 科 目 | 前 期 |
|------------|-----|------------|-----|
| 当期末処理損失 | 373 | 当期末処分利益 | 222 |
| 次期繰越損失 | 373 | 次期繰越利益 | 222 |

役員の異動（平成15年6月27日開催予定の株主総会）

（1）新任取締役候補

該当者無し

（2）新任監査役候補

非常勤監査役（常務取締役）

杉 本 博 嗣

（3）退任取締役

常務取締役（非常勤監査役に就任予定）

杉 本 博 嗣

（4）退任監査役

非常勤監査役

大 塚 順次郎

（5）役付取締役の変更

該当者無し

以 上